

令和4年度 公共事業再評価(農業農村整備事業)

中山間地域総合整備事業

東河地区

経済産業部 農地局 農地保全課

1 位置図／事業概要 (事業の目的)

課題

- ・ 地域全体の活性化
平地より条件不利地が多い。人口減少や高齢化が進行

中山間地域総合整備事業

農業生産基盤整備

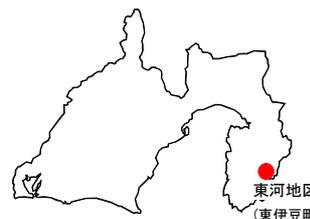
生産性向上、
付加価値向上

農村振興環境整備

快適性、利便性向上、
コミュニティ活動の推進

一体的
に実施

県内位置図



活性化構想

キャッチフレーズ:

『花とふれあいづくりの郷宣言・美しい郷づくり宣言・産業力を高める地域需給宣言』

地域の進むべき方向	・農業経営体の育成、農地利用の集積促進 ・農業生産技術の向上、作業効率化省力化の推進
土地利用の構想	・集団性の高い優良農地の確保・保全
農業基盤の整備開発計画	・作業の効率化、省力化、生産性の向上 ・都市と農村交流による地域の活性化
農業の近代化施設整備計画	・観光産業と連携のもと、地域特産品としての振興 ・地域農業の活性化と所得向上による調和
生活環境整備計画	・集落道の整備による快適な移動環境の確保 ・農村集落におけるコミュニティ活動の推進

事業目的

条件整備を行い、農業と観光業等の連携により、優良農地の保全や特産品の販売ルート拡大及びグリーンツーリズムの推進等で、活性化構想に掲げる郷づくりの実現を図る。

1 位置図／事業概要（事業内容）

花とふれあいつくりの郷宣言・美しい郷づくり宣言・
産業力を高める地域需給宣言

地区概要

施工箇所：東伊豆町・河津町
 受益面積：48.4ha
 工期：平成24年度～令和8年度（平成29年度）
 事業費：1,816百万円（1,059.2百万円）
 事業内容：
 農業生産基盤整備
 農業用排水路 L=865m 農道 L=5,260m
 農村振興環境整備
 農業集落道 L=965m
 交流基盤施設 1箇所 市民農園 1箇所

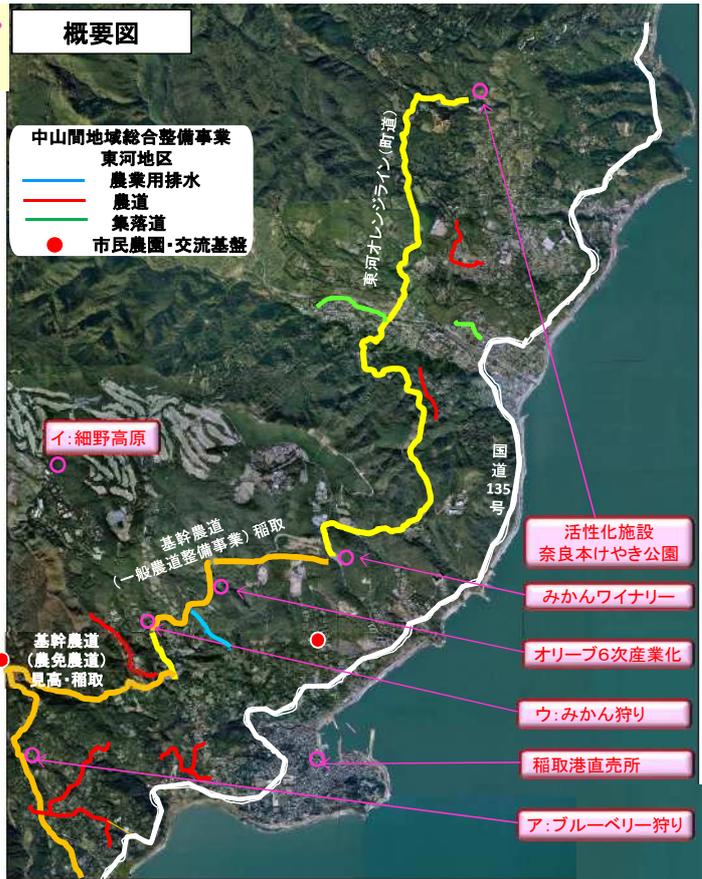
ア ブルーベリー狩り（見高） イ すずきイベント（細野高原）



ウ みかん狩り（稲取）



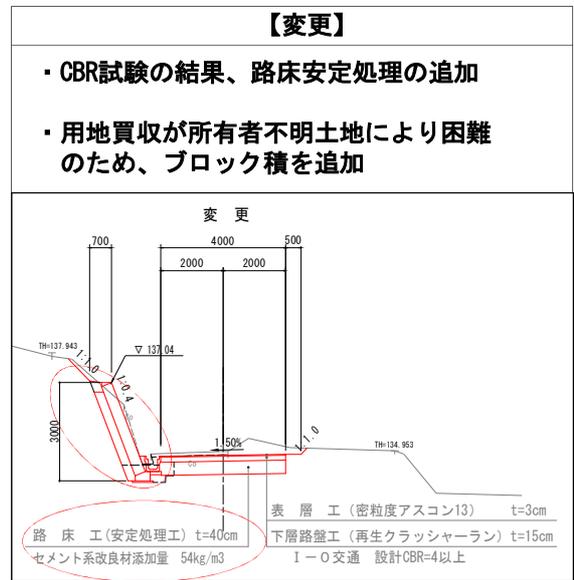
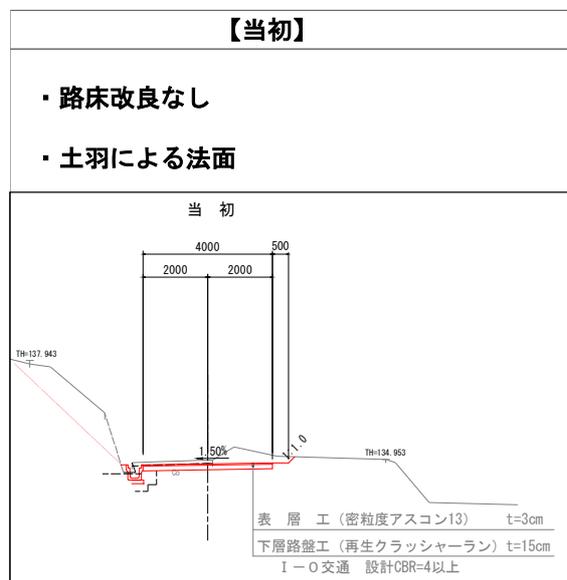
主な農業 ニューサマーオレンジなどの「柑橘類」や「花卉」等



1 位置図／事業概要（当初からの変更点・理由）

項目	当初(H24)	今回(R4)	主な変更理由
①計画期間	H24～H29	H24～R8（+9年）	全体事業費の増額により、完了年度を令和8年度まで延伸
②全体事業費	1,059百万円	1,816百万円（+757百万円）	農道・農業集落道において、路床改良や法面保護等を追加

当初からの変更（工法変更）



【視点1】事業の必要性等（その1）

（1）事業を巡る社会情勢等の変化

[課題] ・ 過疎化や高齢化により、地域や農業の担い手が不足

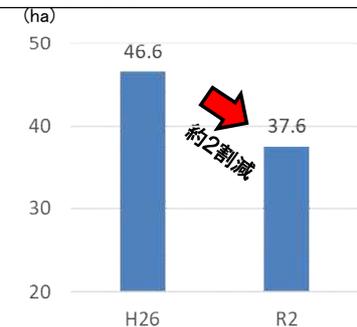
・ 観光交流客の減少

・ 農業の衰退、荒廃農地の発生などによる農村環境の悪化

[対策] ・ 農道や排水路のきめ細かな整備による農業の生産性向上、
地域資源の健全な維持

・ 農業集落道や市民農園等の交流施設の整備による地域の活性化

＜荒廃農地の解消＞



出典：荒廃農地の発生・解消面積に関する調査
(東伊豆町農業委員会)

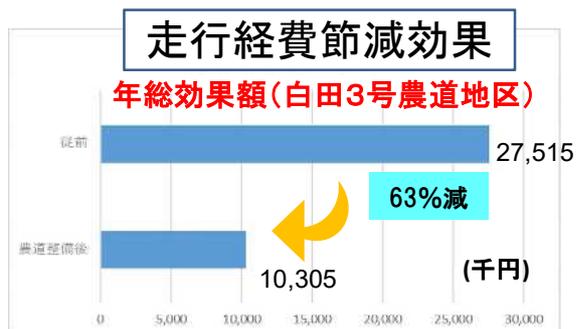
事業実施前の状態



事業実施後（荒廃農地解消）



【視点1】事業の必要性等（その1）＜農業生産基盤＞



徒歩⇒軽トラック等の車両の走行が可能

- ・ 通作時間が短くなることにより、生産コストが縮減され、農業者の収益性が向上
- ・ 舗装道路により、高品質な農産物の輸送が可能

費用対効果の内訳

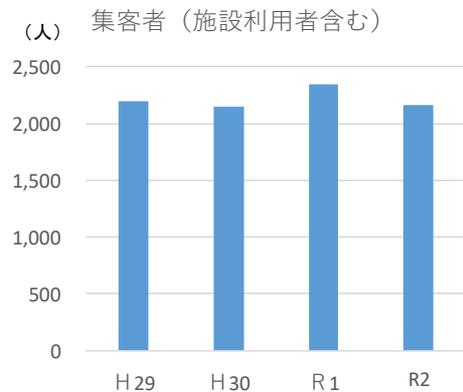
工種/効果	走行経費節減	維持管理費節減	災害防止
農道	○	○	-
農業用排水路	-	-	○

【視点1】事業の必要性等（その1）〈農村振興環境1〉

○市民農園の整備や集落道の整備農地を活かした地域づくりとの連携
（農村集落のコミュニティ活動、集落間の交流の促進）



市民農園「海に見える農園」



ほぼ全区画契約 ～契約者の5割以上が県外～



滞在区画 <全10区画>



日帰・体験区画 <全50区画>



交流イベント (収穫祭)

【視点1】事業の必要性等（その1）〈農村振興環境2〉

「伊豆オリーブみらいプロジェクト」
R2年度県農地利用最適化推進活動表彰事業
「耕作放棄地再生部門」最優秀賞



地区内の荒廃農地を利用し、オリーブ
の6次産業化

稲取漁協直売所「こらっしゅ」開設
R元年度オープン



漁協 (JF) と農協 (JA) が共同で運営し、地場産品を扱う直売所

東伊豆町: 令和3年 30年ぶりに人口社会増 (41人)

【視点1】事業の必要性等（その2）

(2) 事業の投資効果

総便益(B) 51.21億円
総費用(C) 23.25億円

総費用総便益比
B/C=2.20

経済的内部収益率
EIRR=6.4%

(3) 事業の進捗状況 (令和4年度末見込み)

事業費進捗率 : 68.1% 事業量進捗率 : 70.4%

【視点2】今後の事業の進捗見込み

- 基幹農道見高稲取地区（平成22年度完了）
- 一般農道稲取地区（令和4年度完了予定）
基幹農道の完成による、農作物輸送の合理化、都市と農村のアクセスが改善

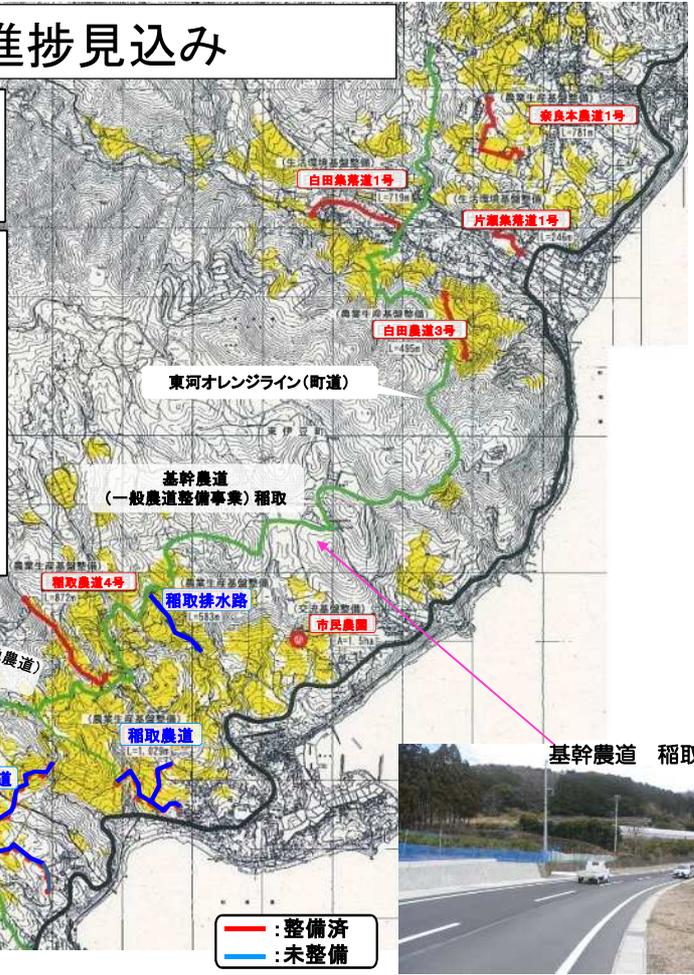
○東河地区

【整備済】

農道3路線、農業集落道2路線、市民農園

【今後の見込み】

- ・**稲取排水路**：全線用地買収済。また、基幹農道を活用した工事により順調な進捗が見込める
- ・**見高農道、稲取農道**：狭隘な片押し区間は施工済。今後は起終点から工事を進めることができ計画的な工事の進捗が見込める
- ・**交流基盤施設**：住民とワークショップにより計画を策定中



今後の事業の円滑な進捗が見込まれる。

基幹農道 見高稲取



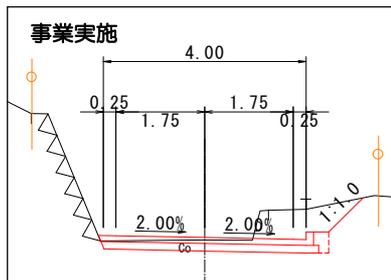
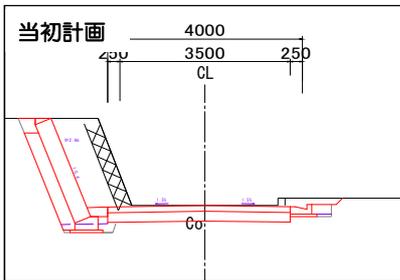
基幹農道 稲取



【視点3】コスト縮減・代替案立案等の可能性

○稲取農道

- ・一部区間において、既設ブロック積を有効活用するため地元調整を行い、農道の線形を変更してコスト縮減



本事業のコスト縮減
35,000千円

ブロック積擁壁
△490m² △35,000千円

○稲取4号農道、白田集落道

- ・既設舗装を有効活用しコスト縮減

稲取4号農道



本事業のコスト縮減
20,000千円

コンクリート舗装
△1,140m² △20,000千円

○農業者等からの意見

- ・人間の生命を守る食米・野菜・果物の環境整備は最も重要な事業だと思う。
- ・農道の整備により、農業の生産性が向上した。地区内には未整備箇所もあり、早期完成を望む。

対応方針（案）

- ・ 本事業は、農業と観光業等が連携し、地域全体で活性化を図る。
- ・ 地域や農業の担い手不足や観光業の落ち込みから、本事業の必要性は一層高まっている。
- ・ 農道や農業用排水路の整備により、効率的な農業生産が可能となっている。これにより、農業や農地などの地域資源が健全に保たれている。
- ・ 地域資源を活用し都市と農村との交流や農村集落のコミュニティ活動が活発化している。
- ・ 事業の投資効果や今後の事業進捗も見込まれる。



本事業を継続し早期完成を図る